

飯能西中だより



天覧山 6月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和3年度 第3-1号
令和3年6月1日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

皆様に支えられ 飯能西中学校は今年50周年の節目を迎えます。

交通事故から学んだこと

校長 中村 公一

毎年、今頃は清々しい初夏の季節を迎えているはずなのですが、今年はもうすでに梅雨入りしてしまったかのような日差しの少ない毎日が続いています。体力を持って余すせいか、天候が悪いと怪我や事故などが増える傾向にあります。ですからこの季節、生徒の安全には特に気をつけていきたいものです。

ところで、私の顔には鼻から口にかけて大きな傷跡があります。一生消えることのない傷を負ったのは私が高校2年生のときでした。当時、私は自転車通学をしていました。それは朝から激しい雨が降る日のことでした。その日、私は自転車の荷台に鞆などをくくりつけ雨合羽を着て学校に向かったのですが、ちょうど家を出て1kmくらいのところで自転車ごとトラックにぶつかり大変大きな怪我をしてしまったのです。広くてまっすぐな見通しのいい道路だったので、おそらく私は何か考え事をしていて前をよく見ていなかったのだと思います。実は、事故当時のことはあまり記憶に残っていません。断片的に思い出せるのは、家を出る前に母親から何か小言を言われていたこと、道路の上で横たわり苦しんでいたこと、救急車の中で救急隊員に頑張れと励まされていたこと、そして病院の救命室での医師と看護師の慌ただしいやりとりの様子です。意識が戻ったのは午後2時頃でした。顔に酸素マスクが着けられベッドの周囲に様々な機材が置いてある集中治療室の中でした。痛みと麻酔のせいで意識が朦朧とする中、父や母、弟の姿がそこにあるのがわかりました。主治医からは「今晚が峠だと思うので頑張らしましょう」と言われたそうです。一晩中痛みのためうなされていました。苦しくて無意識のうちにあげた手をしっかりと握ってくれていたのは父親でした。おそらく一睡もしなかったのだと思います。父が中学生の頃はそろばんと数学が得意だったそうです。成績もよかったため、担任の先生がわざわざ家にまで来て、なんとか高校に進学させてあげられないだろうかと祖母に頼んでくれたのだそうですが、経済的に厳しい状況だけはどうにもならず、父は中卒で就職することになったのです。けれどもきつと心の中ではもっと勉強したいと思っていたに違いありません。そのためなのか、自分の子どもには自由に勉強させてあげたいと私の母によく言っていたそうです。それだけに、私が少しでも生半可な気持ちでいるとそれを見逃さず、とても厳しく叱りました。「いい加減な気持ちじゃ何やったってだめだ」というのが口癖でした。そんな父親が一晩中手を握っていてくれたのです。うれしいような、恥ずかしいような、情けないような複雑な気持ちでした。退院後、事情聴取のために警察に呼ばれました。そのとき、担当していた警察官からこう言われました。「あなたのお父さん、あちこちで深々と頭下げてたんだよ。気も動転してたんだろうな、書類にもいろいろな間違いがあつてさ。でも本当に立派な人だよ。もう心配かけちゃダメだよ。今すぐにはできなくってもいいからさ、いつか必ず孝行してあげるんだよ。」それまで何かと親に対して素直になれなかった私の心の奥深くに何かじんわりと染み込んできたように感じました。

私事で恐縮ですが、6月19日は私にとって大切な記念日です。「日常の生活の中には思いもかけず大事故につながる危険が潜んでいることを忘れない日」そして「親のありがたみを思い出す日」なのです。

自転車によって加害者になることもあるのです

生徒の皆さんへ

最近、生徒の皆さんの校外での交通マナーについて大変心配する声が寄せられています。それは自転車の乗り方と道路の横断の仕方についてです。特に自転車は自分の命ばかりか相手の命まで奪うような大きな事故につながりかねません。私たち教職員も自動車の運転には気をつけなければいけないと思っています。共に事故0の学校にしていきたいと思っています。 よろしくをお願いします。

校長講話から

5月24日(月)の学校朝会では次の3点をお話ししました。本校に着任して以来、私は職員や保護者の皆様に飯能西中学校が「一人一人が大切にされていることが実感でき、家に帰ったときに、元気よくたまたまといえる学校でありたい」と願っていることをお伝えしています。そのことを生徒にもわかりやすくお話ししました。みんなと一緒に生活する学校においてトラブルはつき物です。けれども大切なのはその後どうするかです。家に帰るときには怒りを鎮め、心を癒やしてまた元気になれるように、謝るべきことはしっかりと謝り、その日のうちに解決して家に帰ることが出来るようにしたいものです。前回の講話では「掃除は心磨き」というお話をしました。人の心というものは環境によって大きく変わってきます。ゴミや埃にまみれ、人の悪口や叫声に囲まれていたらどんな人でも心が折れてしまい楽しく過ごせるはずはありません。ですから掃除や言葉遣いをきちんとし、みんなの目や耳に入るもの、見えるものや聞こえることを美しいものであるようにすることが大切です。美しい学校とはそういう学校のことを言います。いくら校舎が新しくても心が荒れていては美しい学校とは言えません。校舎は古くてもそこに集う人の心が美しければ間違いなくそこは美しい学校と言えます。もうじき学校総合体育大会です。普段の部活でも3年生の皆さんが最後の大会に向けて頑張っている様子が伝わってきます。「厳しい練習は嫌いだけど試合で負けるのも嫌い」というのはただのわがままですから、そうならないように頑張ってもらいたいです。絶対に負けたくないというのなら、自分より強い相手とは戦わないという方法があります。自分より弱い相手とだけ戦えばいいのです。けれどもそれは弱いものいじめと何ら変わりません。ですから普段から弱い者いじめが平気な人は強くはなれませんし、強いものと戦うことから逃げる人は正義感を大切にすることが苦手です。試合や競技には全力で挑みましょう。勝つことだけが大事なわけではありません。勝つことを目指して強くなっていくことが大事なのです。

忘れてはいけない記念日があります

新型コロナウイルスの他にも私たちの安心や安全を脅かすものがあります。先日、停戦が合意したとはいえ、イスラエルとパレスチナ自治区ガザのイスラム主義組織ハマスとの間での武力衝突では多くの命が失われました。世界は未だに平和を手に入れることが出来ていないということを思い知らされたような気がします。76年前、日本では三百万人以上、アジアでは二千万人以上の人が戦争で亡くなりました。ほぼ日本全土に空襲などの被害が及んだのですが、その中でも特に沖縄では凄惨な地上戦が行われ、県民の4人に1人という実に多くの犠牲者を出しました。この闘いで日本軍による組織的な戦闘が終了した日が6月23日とされており、沖縄県ではこの日を「慰霊の日」として休日に定めています。毎年6月23日には沖縄全戦没者追悼式が行われており、今年もコロナの影響で規模は縮小するものの沖縄各地で慰霊祭が行われます。沖縄師範学校女子部と県立第一高等女学校の生徒のことについてはひめゆりの塔のお話として有名だったはずなのですが、それさえ知らない若者が多くなっていることに危機感を持たずにはいられません。今一度、教室や家庭で話題にしてみてください。

○ 6月の主な行事予定 ○

1日(火) 生徒朝会	17日(木) 学校総合体育大会入間西部予選
8日(火) 耳鼻科検診	給食なし
11日(金) 県通信陸上	22日(火) 学校朝会
12日(土) 県通信陸上	24日(木) 2年生宿泊学習
15日(火) 生徒朝会(壮行会)	25日(金) 2年生宿泊学習
16日(水) 学校総合体育大会入間西部予選	26日(土) 入間地区代表決定戦
給食なし	テスト前諸活動停止

